氏名	渡 辺 哲 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1381 号
学位授与の日付	昭和58年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**大腸癌患者における癌特異的免疫能に関する研究**
論文審査委員	教授 寺本 滋　教授 木村郁郎　教授 小川勝士

学位論文内容の要旨

大腸癌患者の末梢血リンパ球と血清を用いて，大腸癌特異的免疫能について検索した。

大腸癌株化P-4788細胞を標的とした Takasugi-Klein の microcytototoxicity assay と，^{3}H-Uridine を用いた ^{3}H-Uridine postlabeling lymphocytotoxicity assay を比較すると両者間に正の相関をみた。大腸癌患者末梢血リンパ球の大腸癌株化P-4788細胞と他癌株化細胞M-HeLa を標的とした Iymphocytotoxicity を比較すると，P-4788細胞に有意（$p<0.01$）に高い cytotoxicity を示した。

大腸癌抽出 allo-antigen を用いた mixed Iymphocyte tumor reaction（MLTR）において大腸癌患者は，胃癌患者，良性疾患患者に比べ，有意（$p<0.01$）に高い幼若化反応を示した。以上より，大腸癌患者には，cross react する腫瘍特異抗原の存在が示唆された。そこで臨床的に大腸癌患者の特異的免疫動態を把握するため，cytotoxicity 及び血清阻止因子の測定と血中 CEA 値との相関を検討した。

大腸癌患者の術前後の cytotoxicity を比較すると，術前の stage 別の cytotoxicity に有意差はなく，術後は stage Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳで低下したが stage Ⅴは低下しなかった。一方，血清阻止因子は，stage の進行と共に上昇した。血中の CEA は，stage の進行と共に上昇し，術後はいずれの stage も著しく低下した。血中 CEA 値と血清阻止因子は相関を示したが，cytotoxicity とは相関を示さなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は癌特異的免疫能に関する臨床的研究であるが大腸癌患者の末梢血リンパ球と

血清を用いて検索した結果癌特異的免疫動態について重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。